

会 議 報 告

区 分	内 容
会 議 名	令和 7 年度第 2 回こどものまち前橋若者会議
日 時	令和 7 年 7 月 1 5 日（火） 1 7 : 3 0 ~ 1 9 : 4 0
場 所	前橋市保健センター 4 階集団指導室
出 席 者	齋藤会長、吉野副会長、林委員、大畠委員、間委員、長野委員 こども政策課：佐藤課長、小暮副参事、齋藤副主幹、奈良主任、野村主任
議 題	(1) これまでの取組概要 (2) 前橋市こども基本条例の素案について (3) (仮称) 前橋市こども計画の骨子案について (4) こども意見聴取について (5) 小中学生ワークショップについて
結 果	・議題 (2) ~ (4) について、案のとおり進めることが了承された。 ・第 3 回若者会議は、8 月 1 2 日（火）~ 2 2 日（金）の期間で各委員の都合を後日確認し、開催日を決定する。 ・ワークショップのオリエンテーション及びアイスブレイクについて、「ニックネームのつけ合い」は見直すこととし、「人間知恵の輪」をアイディアの一つとして検討する。 ・ワークショップの時間構成を再検討する。 ・ワークショップの進行シナリオ、使用する資料等はでき次第、各委員に共有する。 ・ワークショップ中の役割については、開始前に到着したこどもたちの対応も含め、委員に決めてもらうこととした。
内 容	1 開会 2 議題 議題について、資料をもとにこども政策課から説明を行った。 (1) これまでの取組概要 ・前回会議以降、こども基本条例やこども計画策定に関する取組について説明した。 (2) 前橋市こども基本条例の素案について ・5 月から 6 月にかけて実施した、条例前文を検討する高校生ワークショップ（全 4 回）について、その行程や高校生たちの意見などを含め報告した。 ・前回会議時点からの主な変更点などを説明した。 →第 9 条の削除、第 4 条第 3 項にこどもの権利の理解と他者の権利の尊重についての規定の追加、第 14 条に市を含む大人の共通の役割を追加、附則に検討条項を追加。 ・条例素案に係るパブリックコメントの実施に伴うその後の事務の流れや全体スケジュールについて説明した。パブリックコメントの結果公表は 11 月頃を予定している。

(3) (仮称) 前橋市こども計画の骨子案について

- ・ 前回会議で策定方針を承認いただいたが、今回はこども計画の骨子案について説明を行った。
- ・ 全体像としては、①総論、②各論、③資料編・別冊の3つから構成される。
- ・ 総論は、「こども計画について」「本市の現状」「本市が目指す姿、基本理念、基本目標」「計画の推進体制、進捗管理」での構成となり、それぞれに掲載される主な内容について説明した。
- ・ 「本市が目指す姿」では、こども・若者の願いとして、これまでに開催されたワークショップやアンケート調査などでのこども、若者の声も紹介していきたいと考えている。
- ・ 推進体制として、各関係者会議を中心に実施状況や成果等についての報告や評価を行うこと、PDCAサイクルにより進捗状況を管理し、状況により必要な改善を行っていくこと、事業実施状況や成果等は毎年公表をしていくこととする。
- ・ 各論は、施策の柱に紐づく各事業や取組部分となるが資料は例示であり今後、庁内各課へ照会をして、事業等の集約を行っていくものである。
- ・ 計画に位置付ける各事業は、事業実施計画、施設整備計画として別冊でまとめる予定。すでに今年度から始まっている第三期子ども・子育て支援事業計画も別冊扱いとなる。

(4) こども意見聴取について

- ・ こどもの意見聴取への取組について背景を踏まえ、本市として市を挙げて取り組んでいくこととし、条例のなかに関連する規定を設けることや計画における施策の一つとして位置付けていくこととする。
- ・ こどもの意見聴取の推進にあたり実施方法や普及方法などの検討を行い、こどもからの意見聴取が本市全体に広がり、根付いていくような方策をまとめ、制度化を図っていきたいと考えている。
- ・ 国や県、本市の取組状況、現状などをふまえ、今後、こどもの意見聴取を推進していくために、庁内ワーキンググループを立ち上げ検討していくこととする。

(5) 小中学生ワークショップについて

- ・ 市内在住、在学の小学4年生～中学3年生を対象にこども基本条例やこども計画について意見を聴くために開催するもの。
- ・ こどもの権利及びこども基本条例についての知識や理解を深めてもらうとともに、こどもがどのような場所や方法であれば意見が言いやすいか、こども基本条例の周知方法について意見を聴く。また、こども計画については、こどもたちが望む前橋市について考えてもらい、計画の名称についてアイデアを出してもらうことを考えている。
- ・ グループは異なる学年を混ぜて構成することとしたい。
- ・ ワークショップ当日の流れ、実施するアイスブレイクとオリエンテーションの案を共有した。
- ・ 当日の司会進行については、若者会議委員に任せることとし、進行シナリオ及びその他資料等は市で作成し、委員で役割を決めてもらうこととした。

	・ワークショップ開催前に打合せとリハーサルとして、第3回こどものまち前橋若者会議の開催を予定している。 3 閉会
主な意見、感想など	(1) これまでの取組概要 特に意見なし (2) 前橋市こども基本条例の素案について (吉野副会長) ・こども基本条例第9条において、「権利を正しく行使すること」、「他者の権利を侵害しないこと」や「それを他者が行わないように努めること」などが削除されているが、この表現を無くした理由は何か。 (こども政策課) ⇒「権利を正しく行使する」という表現について、有識者の委員から正しさを誰が判断するのかという指摘があり、日本語としても適切か疑問があるとの意見を受けたため、その表現を削除した。また、いじめや差別などの他者の権利侵害に関する規定については、こどもが社会の中で大人から教わりながら学んでいくべきものであるという考えから、こどもの役割の中には盛り込まず、大人の役割の中に規定することとした。 (3) (仮称) 前橋市こども計画の骨子案について 特に意見なし (4) こども意見聴取について (吉野副会長) ・当該若者会議に高校生を加える提案について、大学生と高校生では視点が大きく異なることから面白いのではと感じた。しかし一方で、大学生と高校生では部活や勉強など環境も大きく異なるため、会議の形も工夫が必要だと考える。「こども若者会議」とするのであれば、「こども会議」「若者会議」「こども若者会議」と分けて開催することで、意見の共有だけでなく、こどもたちが自由に意見を話せる機会を増やせることができ、意義のある取組になると思う。 ・商店街で自転車を通る高校生を見かけることが多くなったため、商店街で開催するのも一つの案だと考える。 (齋藤会長) ・「こども若者会議」になることについて、良い案だと思う。しかし、高校に入ったばかりの子が、大学生の意見に圧倒され「自分たちは意見を言えない」と感じてしまうような環境になることは避けたい。そのため、それぞれの年代が安心して意見を言える場を作ることが重要であると考え。また、委員は繋がりから選出していることが多いことから、多様な意見が聴けなくなる可能性があり、特に高校生の委員選出方法は課題になるのではないかと思う。 ・自分の高校時代には、周囲に積極的に意見を発言する人が多かったため、

公募でも高校生が集まるのではないかと。

(林委員)

- ・自分が関わっている高校生学習室の運営委員会では2か月に1回の頻度で会議を開催しており、今年は10人以上の意欲的な高校生が参加している。彼らは意見を積極的に発信する姿勢が強く、鋭い意見も多く見られる。ただし、参加者は高校生学習室の近隣の学校に偏りがちである。また、高校生は自転車での移動になるため、開催場所をしっかりと検討することにより、多忙な高校生でも定期的な開催ができるのではないかと考える。大学生に対して意見を言いづらいという懸念もあるが、運営委員会に参加している高校生を見ると積極的に発言できる子が多く、大学生にとっても刺激になる。ただし、委員選出方法が偏らない工夫が必要だと感じている。
- ・勉強や部活などで忙しい高校生は、途中で脱落しないよう、モチベーションの維持が大切だと感じる。そのため、定期的に課題を与えるなどして意欲を保てるような工夫が必要だと思う。

(間委員)

- ・視点が異なる意見が聞けることは面白いと思う。開催の場所については、パソコンを所持している可能性が高いため、オンライン会議の活用なども考えられる。また、発言しにくい子に関しては、匿名でweb回答してもらうのも良いのではないかと考える。意見聴取方法や委員の選出方法、開催場所は検討する必要があると考える。

(5) 小中学生ワークショップについて

(吉野副会長)

- ・前回のワークショップでは、学年でグループが分けられていたこともあり、グループごとの進捗に差が出ていた。ファシリテーターとしてこどもたちに係わっていると、他のグループの活動状況を把握する余裕がなく、グループ間での情報共有が不足していると感じた。グループ間の活動の様子を可視化できると、全体を把握でき、より良い活動ができると思う。
- ・今回のワークショップの目的は、「こどもたちの意見を反映するための意見を聴くこと」であるが、異なる学年の交流によって生まれる意見を重視するのか、または、それぞれの発達段階でこどもが抱えている課題や思いを聴くことを重視するのかにより、グループ構成は変わってくるのではないかと。

異なる学年でグループ構成をした場合でも、学年ごとの意見をしっかりと把握するためには、学年ごとに分かれて話し合いを行い、その後代表者が集まって意見を共有するような時間を設けることで、両方の視点を取り入れることが可能になるのではないかと考える。同じ学年同士で話すことも、異なる学年と話すことも、それぞれに意味があり、今回のワークショップでは両方の形を取り入れることが望ましいのではないかと感じた。

(齋藤会長)

- ・アイスブレイクについては、チームごとに行う場合「人間知恵の輪」を勧める。円になり、グループの全員が隣の人以外のそれぞれ異なる人と手を繋ぎ、絡まった状態から円に戻れたら勝ちというゲーム。制限時間（5分、4分×2セット、3分×2セットなど）を設けて行うため時間も掛からない。グループで競うゲームとして、説明も実践も簡単に行える。
 - ・オリエンテーションでは、対象が小学4年生～中学3年生までと幅広いため、ニックネームをつけさせることには慎重になるべきだと考える。特に、言葉の使い方が慣れていない子がいる場合、意図せず相手を傷つけてしまう可能性があり、その後の関係性や活動に支障が出るのが懸念される。自己紹介の方法としては、カードゲームやボードゲームのような形式を取り入れることで、より安全で楽しい時間になるのではないかと考える。例えば、自分の名前を伝えた後に、カードに記載されたお題に回答し、必須情報とお題の両方を自然に話すことができる。
- また、友人同士が同じグループになった場合、普段の関係性の延長で悪口を言い合ってしまう場面も小学生では時折見られるため、そうしたリスクを避ける意味でも、ニックネームの導入には慎重な検討が必要である。

（こども政策課）

⇒今回のワークショップでは、異なる学年のこどもたちを混ぜたグループ構成で試してみたい。年下の子が年上の子に対して意見を言いづらくなる予測はしているが、学年を混ぜることで、お兄さん・お姉さんのような関係性が生まれ、仲良しグループ内での悪口や偏った関係性の形成などを避けられる可能性がある。アイスブレイクなどの活動においても、競争形式にする場合は、学年差による不公平感が出ないような工夫が必要である。

異なる年齢を混ぜることで、上手いかわからないこともあると思うが、様々なやり方を検証していき、こどもの意見聴取のより良いやり方を考えていきたい。

（齋藤会長）

⇒「人間知恵の輪」は、学年が大きいこどもたちは頭脳を使い、小さいこどもたちはとにかく動いて勝つことができるため、どんなチームで組んでも、比較的平等に戦えると思う。

（齋藤会長）

- ・ワークショップの活動時間について、こどもたちが60分耐えられるか疑問に思う。普段の授業時間は中学生50分、小学生は45分であるため、いざ意見を出す時に集中力が切れてしまっているのでは。30分、30分で分け、間にトイレ休憩を挟んであげると気分転換ができて良いと思う。